

教職支援室便り (11月号)

令和4年11月11日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験結果

教員採用選考試験の結果が、ほとんどの自治体で発表されました。現役生6名(延べ7名)、既卒生7名(延べ7名・既卒生については把握分のみ)、計13名(延べ14名)が、下欄の自治体に合格しました。

なお、本年度は私立学校受験者、大学院受験者の支援も行いました。全員合格の結果を、とてもうれしく思っています。

公立学校受験者(現役)の合格率：55%

【小学校】・・・3名

宮崎県2名(現役2名)、長崎県1名(現役1名)

【小学校英語】・・・3名

宮崎県3名(現役2名、既卒1名)

【中学校英語】・・・7名

宮崎県4名(既卒4名)、鹿児島県1名(既卒1名)、岡山県1名(現役1名)

鳥取県1名(現役1名)

【高等学校英語】・・・1名

宮崎県1名(既卒1名)

平成22年4月以降の合格者等の状況

()は延べ人数

採用年度	R5.4	R4.4	R3.4	R2.4	H31.4	H30.4	H29.4	H28.4	H27.4	H26.4	H25.4
合格者	13 (14)	13 (14)	15 (16)	12 (14)	11 (11)	17 (20)	16 (20)	16 (18)	13 (15)	12 (17)	15 (17)
現役生	6(7)	6(6)	8(9)	9(11)	5(5)	8(11)	8(12)	7(9)	4(6)	6(9)	4(6)
既卒生	7(7)	7(8)	7(7)	3(3)	6(6)	9(9)	8(8)	9(9)	9(9)	6(8)	11(11)
現役 受験者	11	8	15	15	12	19	14	13	11	14	11

採用年度	H24.4	H23.4	H22.4
合格者	11 (12)	14 (14)	6 (6)
現役生	5(5)	2(2)	2(2)
既卒生	6(7)	12(12)	4(4)
現役 受験者	12	13	12

現役合格者の声

小さい頃からの夢だった、小学校教師に来年からなることができると思うと、すごく嬉しいです。特別講座を受ける前の私は、合格することが“ゴール”だと思っていました。しかし、今の私は違います。ここからが“スタート”だという気持ちです。こんなふうに私を変えてくれた、成長させてくれた曾我先生の特別講座には感謝しかありません。もちろん現場に出たら、大変なこともあると思うので、不安な気持ちも少しはありますが、それ以上に楽しみなことが沢山あります。先輩の先生方に助けてもらいながら、子どもたちと一緒に成長していけたらいいなと思います。4月に向けて、少しずつ準備していきたいです。本当にありがとうございました。

幼い頃から追いつけた夢が現実になった日。

正直、合格発表があつて数日経ちましたが、まだ実感が湧いていません。しかし、間違いなく言えるのは、合格できたのは、たくさんのサポートをしてくださった先生、家族、一緒に支え合ってきた友人、教師の夢を抱かせてくれた恩師、そして最後まで諦めず粘り続けた、教職への熱い思いがあったからだと思えます。合格通知をいただき、改めて気づいたことは、自分が教師の道をこれから歩めるのは、これまで出会ってきた方々との、素晴らしいご縁のおかげだということです。採用試験は無事終わりましたが、これからがスタートだと思っています。教育現場に出てたくさんの壁にぶつかると思いますが、この特別講座で得たかけがえのないものを胸に、私らしく常に前進し続けたいと思います。

教員採用選考試験を合格し、特別講座をしてくださった曾我先生、支えてくれた家族や友人に感謝の気持ちでいっぱいになりました。特別講座に休まず出席し、毎日模擬授業や面接などの演習に取り組んだことによって、自信をもって二次試験にのぞむことができました。これから、大学の授業で学んだことや特別講座で学んだことをいかして、4月から頑張りたいと思います。子どもたちに寄り添うことのできる観察力のある教師をめざし、日々努力していきたいと思っています。

特別講座を受講し、合格内定をいただいた今思うことは、特別講座を受講して本当に良かったということです。昨年の10月ごろから受講し続けていましたが、他の授業やゼミとの両立は確かに大変でした。でも、一人で勉強をするより記憶に残りやすかったし、みんなと話し合いをすることで、教職に対する理解もより深まったと思います。最近は教師の労働問題等が、問題に挙げられることが多いですが、それでもなお教師になりたいという思いが変わらなかったのは、特別講座を通して、教師のやりがいというものを強く実感したからだと思っています。これから現場に出る上で、不安もありますが、自分が学んだことに自信を持っていきたいと思っています。

先日、教員採用試験の結果が分かり、今はとても安心してしています。振り返ると、多くの先生方や教職の仲間たちに支えて頂いたおかげで、乗り越えることができたと感じています。また、特別講座で頑張ることができて良かったと感じています。4月からは、将来の夢であった教師になることができることに、ワクワクしているとともに、本当に自分に務まるのかという不安もありますが、残りの期間でもっと自信をもつことができるように過ごしていきたいです。ありがとうございました。

教職特別講座スタート



<オリエンテーションの様子>

本年度の教員採用選考試験の合格発表も終わり、次年度受験する学生の皆さんを対象に、10月18日(火)、「教職特別講座」のオリエンテーションを行いました。現在、3年生を中心とした「教職特別講座」が始まっています。これから、約1年にわたり様々な演習を重ねていきます。

今回は、20名の受講希望がありました。教職への思いには、まだ個人差があるかもしれません。「本当に先生になりたいのか。」について自問自答して、これから演習に取り組んでほしいです。

「教職特別講座」では、教職教養、専門教養などの筆記試験対策とともに、学校教育に関する問題・課題を資料提示したり、それに関する討論を取り入れたりしながら、教職への理解を図るとともに、教員としての資質・能力の向上を目指します。また、多くの自治体では、一次試験から個人(集団)面接、小論文などの試験が行われていることから、早い段階で、それらの演習も取り入れながら進めます。

学生の皆さんには、自己の目標を明確にもち、この「教職特別講座」を有意義なものにしてほしいと思いますが、特に大切な姿勢は「主体性」です。他律的な姿勢では成果は得られません。課題解決に向けて、自分から求めていく意欲が不可欠です。「教職特別講座」で何を学ぶのか、どのような姿勢で臨むのかなどについて、しっかりとした考えをもって取り組んでほしいと思います。

この「教職特別講座」が、教員採用選考試験対策のためだけではなく、教員としての資質・能力の向上に資するよう、自分自身を磨いていく、貴重な場にしてほしいと切に願います。私も、誠心誠意支援をしていきます。

次に、学生の皆さんの「教職特別講座」への抱負を、一部紹介します。

私は特別講座を受講することで、知識を多く身につけることはもちろん、多様な考え方を得たり、同じ志を持つ仲間と一生懸命頑張りたいと思います。正直、かなり大変そうだなという印象はありますが、ここまで頑張ってきたからには最後まで頑張っ、少しでも多くタメになること、新しい考え方などを吸収したいです。また、今はまだ不安な気持ちを晴れさせることができたかなと思います。たくさんの学びを得て、それが徐々に自信に変わっていくことが楽しみです。

私は先生になりたいという夢を叶えるために宮崎公立大学に入学し、心が折れそうになるくらい大変な時もありましたが、あきらめずに教職課程を取ってきました。今回教職特別講座を受けるにあたって、教員採用試験まで一年を切りましたが、自分の英語力を向上させ、試験に合格することだけに留まらず、先生や人として必要な資質・能力を備えることを目標に持ちながら、ここからは自分自身との闘いだという覚悟をもって、自分の夢を叶えるために、一生懸命に取り組みたいと思います。

私は小学校の頃から教員になることを夢見てきました。今まで出会った先生方のような教員になるために、この特別講座でしっかりと知識を身につけ、教員採用試験に合格するためだけの勉強にならないように、教員としての資質・能力を高めていきたいと思えます。大変かもしれないけど、絶対に合格するという強い気持ちを持って頑張りたいです。よろしくをお願いします。

道徳の教科化に思う！（シリーズ66）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「道徳科の授業における内面的自覚とは ～内面的自覚と『展開後段』の重要性～」をテーマに、その2として『展開後段』及び内面的自覚の重要性の認識と課題、「内面的自覚の姿」についてまとめました。

1 「展開後段」及び内面的自覚の重要性の認識と課題

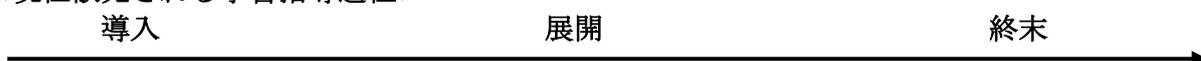
小学校・中学校学習指導要領解説においては、全体を通して「展開後段」の言葉は出てきません。特に関係のある学習指導案の形式、内容については、その形式に決まった基準はないこと、多様な学習指導案を創意工夫すること、誰が見てもよく分かるように、形式や記述を工夫することなどが述べられています。また、学習指導過程については、一般的としてはいますが、導入、展開、終末の各段階に区分することとし、「展開後段」の表記はありません。

そして、現在、多くの学習指導案に見られる学習指導過程は、「導入～展開～終末」であり、「導入～展開前段～展開後段～終末」は、主流ではなくなりました。このことについては、単に形式上の違いで終わらせることなく、道徳科の本質に関わることとして捉える必要があります。要は、「導入～展開～終末」の「展開」において、本来の「展開後段」の学習活動・内容があるのかが重要なポイントになります。最近、「展開後段」（内面的自覚）の計画がない指導案が散見されるようになりました。授業者が、「展開後段」を意識しないで作成した指導案であるということです。学習指導要領に出てこない「展開後段」ということで、いつの間にか内面的自覚の段階が失われているのです。それは、道徳科の特質である「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」場のない、まさに道徳科の授業が成立していない指導案、授業であると言えます。私たちは今一度、「展開後段」及び内面的自覚の重要性を認識する、という課題を共有する必要があります。

<これまでの学習指導過程>



<現在散見される学習指導過程>



2 内面的自覚の姿

内面的自覚の姿、自己（人間として）の生き方についての考えを深める姿とは、どのような姿なのでしょう。「内面的自覚」という言葉は、よく使われる言葉ですが、「具体的には？」と問われると、なかなか表現が難しい言葉です。

次にあげるア～ケは、内面的自覚の姿を具体的に表現したものです。内面的自覚の姿には、学習者一人一人様々にあると思いますが、それをある程度具体化することは、授業者が内面的自覚をイメージしながら、授業を構想することができるなど、道徳授業を成立させる上でとても重要なことです。

なお、ア～ケについては、児童生徒の発達段階によって活用する項目を選択するなど、弾力的な取扱いがよいと考えます。

<内面的自覚の姿>

ア	今まで気付かなかったことに	気付いた
イ	もやもやしていたことが	はっきりした
ウ	わかっていなかったことが	わかった
エ	迷っていたことが	確かになった
オ	足りないところが	よくわかった
カ	頭でわかっていたことが	しみじみわかった
キ	わかっていたことが	よくわかった
ク	今まで思っていたことが	違うものになった
ケ	わかっていたことが	わからなくなった

- ◇ 次回は、「道徳科の授業における内面的自覚とは ～内面的自覚と『展開後段』の重要性～」をテーマに、その3として『『展開後段』における学習活動・内容（例）と実践例』について掲載する予定です。